

## 歌三首 : 文苑

著者	杉山, 富槌
雑誌名	龍南會雜誌
巻	13
ページ	40 - 40
発行年	1893-01-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/4012">http://hdl.handle.net/2298/4012</a>

梧園先生評故鄉今夜思千里之意

佳梧園先生曰三四頌

逢時屈屨必期伸。何事歲除感慨頻。遙想一家環坐處。也應說着遠遊人。

歲晚偶感

同

同

曆端閱盡歲將迎。獨守殘燈坐五更。客裏光陰如水速。世間風俗似花輕。一陽方復喜人意。萬里未歸傷我情。可憫蒯緱設按劍。半生落魄不成名。

病中所感

杉山富樫

病居窓下獨凄然。歲月怱々業未全。世事年々多不是。雄心鬱鬱欲周旋。

巖上龜

全

巖上翠苔纏。靈龜綠尾鮮。清地瀾穩處。似樂萬斯年。

巖上龜

杉山富樫

苔むせる巖の上に住む龜と治まる御代のためしなりけり、

癸巳元旦

新玉のあさひをむかへ祝ふなり我が大君の御代は千代にと、治まれる御代に生れ去幸にこそやすらに歳を重ねつるとは、